

30代検察事務官（捜査立会）

令和8年4月現在

特別刑事部 捜査立会



【検察事務官を志望した理由など】

高校生の頃、「定時で帰れて、土日は休める公務員になろう！」という甘い考えで公務員を目指していたところ、たまたま受講した公務員試験対策講座の講師の方が、こんな仕事もあるんだよ〜と雑談の中で触れていたのが検察事務官という仕事を知ったきっかけでした。

元々刑事ドラマやミステリ小説が好きで、事件捜査というものへの興味もあったので、へえ〜そんなのあるんだ〜おもしろそ〜程度の軽い気持ちでほいほいと面接を受けに来てしまい、ふと気が付けば20年以上が経過して今に至ります。

【現在の仕事内容について】

現在私が所属する特別刑事部では、官製談合や贈収賄などの汚職事件、国税局とともに捜査する脱税事件、政治家による公職選挙法や政治資金規正法などを主に扱っています。

また、警察などから送致される事件とは別に、検察庁が自ら事件を見つけ出し捜査を開始する「独自事件」というものがあります。

新聞・雑誌の記事や関係者からの情報提供などをきっかけにして、一から事件を掘り起こし捜査するものですが、検察官の指揮の下、お金の流れを追いかけて、人の所在を突き止め、被疑者の自宅や会社などの捜索（いわゆる「ガサ入れ」です）で証拠物を探し出し、スマートフォンやPCなどの電子機器を解析し、メールやメモを読み解き、徐々に事件の真相に迫っていく…という、大変ながらもやりがいのある仕事です。

たぶん一度はテレビのニュースで、「いま〇〇地検特捜部の係員が…」という声とともに、スーツ姿で段ボール箱を抱えてぞろぞろとビルから出てくるところなどをご覧になられたこともあるのではないのでしょうか。あれです。

特捜部、特刑部といえばあの場面が一番イメージされると思うのですが、実際のところ大変なのはその前の準備であったり、その後の捜査や処理であったりします。

何しろ最初は全てが手探りのため、「この情報を得るにはどこにどんなアプロ

「一歩をしたらいいだろうか?」、「入手したこの情報をどう整理して、何に活かしていくのか?」など、自分たちで探して考えていかなければいけないので、難しい反面、ある程度自由な発想を試すことができたり、狙いどおりに上手く行ったときには非常に達成感を感じられます。

【仕事のやりがい・横浜地検の魅力を教えてください】

前述のとおり、恥ずかしながら立派な志望動機など持ち合わせておらず、学生時代には法律の勉強などもしたことがなかったのですが、それでも入庁して仕事を少しずつ覚えていくにつれ、捜査の面白さも分かり始めました。

当たり前のこととはいえ、人の数だけ生活があり、仕事があり、様々な価値観や事情があるわけですが、犯罪捜査という職務の過程でそれらの一部を垣間見るにつれ、この歳になっても世の中にはまだまだ知らないことがあるんだなあとし新鮮に感じます。

新たな事件に関わるたびに、あるときは下水道の種類を調べてみたり、またあるときは風俗店の営業形態の違いを知ったり、流行りの詐欺の手口、法医学・精神医学や福祉、税金の制度や暗号資産、株式投資、選挙運動の決まりやら諸外国の法律やら、半人前のため未だ勉強することは尽きず、少しずつつまみ食いするように新しい知識を得ながら、相も変わらず、「へえ～そんなのあるんだ～おもしろ～」と思いつけています。

これはどんな仕組みなんだろう? どうしてそうなったんだろう? この人はなぜこんなことをしたんだろう? と考え続けること、もっと知りたいと思えることが、この仕事のやりがいであり、魅力だと感じます。

【学生の皆さんに向けてメッセージ】

最初はちょっとした興味だけでも十分だと思います。

検察事務官と一口に言っても、取調べに立ち会う捜査部や裁判を担当する公判部、事件の受理や身柄拘束などの法的手続をチェックする部門、デジタル機器の解析に特化した部門、犯罪の被害に遭われた方を支援する部門もあれば、もちろん総務や人事、会計などの事務局部門もあり、仕事の内容は多岐にわたります。

自分に何の適性があるかはやってみないと分かりません。思っていたより粘り強い自分に気付いて所在捜査のプロになるかもしれないし、IT推進の時代の波に乗ってデジタル解析の専門家になるかもしれないし、捜査にハマってそのまま試験を受けて副検事になるなんて道もあるかもしれません。

なんとなく気になる、なんか面白そう、もうちょっと知りたいかも。そんな風に思ってもらえたのなら、是非お気軽に業務説明会や官庁訪問にいらしてください。